
よっちゃんの本当はなかった泣けるホラ話。

よっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

よっちゃんの本当はなかった泣けるホラ話。

【コード】

N7784Q

【作者名】

よっちゃん

【あらすじ】

まあ全部ウソですが。

じゃあ、少し昔の話でもしようか。

よっちゃんがまだうら若きクソガキだったころの話さ。

今でも時々思い出す、「うそつきおじさん」の話。

あの頃、近所にちょっとした大きさの公園があって、よっちゃんは仲間たちといつもその公園で遊んでたんだ。

いつもの様にみんなで公園に遊びにいったら、ブランコにくたびれたおっちゃんに乗っていた。

最初はちよつとこわかったけど、とりあえず「おっちゃん何してるー？」と声をかけて、話してみるとこれが結構おもしろいおっちゃんやんで、よっちゃん達に色々な話を聞かせてくれたんだ。

海の中で巨大タコと戦った話や、8m強の大きなワシにさらわれた時の話。ピカピカに光る黄金のカブトムシの話。

おっちゃんが語る、おっちゃんの大冒険の物語だ。

そして話が終わると決まっておっちゃんは言った。「ま、ぜーんぶウソなんだけどな！」って。

大人がこんなに簡単にウソをつきまくっているのが俺たちはなんだかおもしろくって、いつの間にか、俺たちとおっちゃんは仲良くなっていたんだ。

学校が終わると、「うそつきおじさん今日もいるかな！」なんて言っていて、毎日公園に行っておっちゃんが話すウソを聞いた。そうするとおっちゃんのウソもどんどんエスカレートして行って、おれたちはますますおっちゃんに夢中になった。

でも、ある日を境に、おっちゃんは公園に姿を見せなくなった。

最初のうちは、「うそつきのおっちゃん、明日はくるかなあ」なんて言っていたけど、

月日が立つにつれて、次第におれたちはおっちゃんの事を忘れていった。

おっちゃんの事をほとんど完全に忘れかけていた頃だ。

公園に遊びに行くと、みすばらしい格好をした、やつれた顔の男がベンチに座っていた。

気味が悪くて、近寄らないようにしてたんだけど、仲間の誰かが思い出したように言った。

「あれって、うそつきおじさんじゃね？」

俺たちはおっちゃんの事をすっかり忘れてたけど、近くにいつてみるとそれは確かにおっちゃんだった。ただ、おっちゃんの顔は痩せこけて、目はくぼみ、深い深いクマができていた。腕を見ると、ガリガリに細くなっていた。

「おっちゃん？うそつきのおっちゃんだよね？」

おれたちは声をかけた。

「おう、お前ら、よう来たなあ」

おっちゃんの声は、かすれていた。

おっちゃんは、いつかの様にウソ話を話し始めた。

おっちゃんの姿が、あまりに痛々しくて、内容はほとんど耳に入っ
てこなかった。それでもおっちゃんは話し続けた。

そして、最後におっちゃんは言った。

「おっちゃんはしばらくまた、冒険の旅に出んといかんから、お前

らとはしばらく会えなくなるなあ。今度はおっちゃん、遠い遠い外国までいくから、もうしばらくここらには帰ってこれんかもな」

話が終わるとおっちゃんは立ち上がり、公園の外へヨロヨロと歩いて行った。

俺たちは、おっちゃんの後ろ姿に声を掛けた。

「おっちゃん！また会えるよね！」

おっちゃんは振り向かないまま言った。

「ああ、また会いに来るよ」

多分それが、おっちゃんの最後のウソだったんだ。

しばらくすると、新聞に小さな記事が乗った、中年男性の飛び降り自殺。

特に珍しくもない、読み流されるような記事だ。

それがおっちゃんかどうかは分からない。

あの日の痩せこけたおっちゃんに何があったかは、知らない。

ただ、今になって思う。

おっちゃんは俺たちに他愛のないウソをつく事で、違う自分になった気になっていたんじゃないか。

どうにもならなかった現実を、ウソにしたかったんじゃないか。

ウソ話が終わったあと、おっちゃんが話の終わりにいつも言っていた。

「ま、ゼーんぶウソなんだけどな！」

最後に会った時、話が終わってもおっちゃんは、一度も言わなかった。

まあ全部ウソなんだけど。

(後書き)

このホラ話に対して感想・文句がある方「金返せてめえこの野郎！」
「別に全然泣ける話じゃねえよ馬鹿！溶ける！」などお待ちしてお
ります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7784q/>

よっちゃんの本当はなかった泣けるホラ話。

2011年10月8日17時20分発行